

| | | | | | | | | | | | |
|--|-------|---|---|--------------|-------------|-----------------|----|-----------------|------|----------|-----|
| 科目ナンバリング | | G-LET35 68433 LJ38 | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | | 現代史学(特殊講義) Contemporary History (Special Lectures) | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | | 人文科学研究所 教授 小関 隆 | | | |
| 配当 学年 | 1回生以上 | 単位数 | 2 | 開講年度・ 開講期 | 2019・ 前期 | 曜時限 | 水4 | 授業 形態 | 特殊講義 | 使用 言語 | 日本語 |
| 題目 | | イギリスの1960年代 | | | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| <p>「スウィング・シクスティーズ」などとも評されるイギリスの1960年代は、ビートルズとミニ・スカートが象徴的なアイテムとなるように、文化革命が花開いた時代として知られる。「豊かな社会」の到来を前提に、若者の台頭と性的解放が進み、広範囲にわたる芸術的革新が実現されて、イギリスは世界的な注目を集める存在となった。しかし、秩序と権威の崩壊が始まり、道徳的な相対主義がもてはやされた時代として、1960年代をネガティブに把握する議論も根強い。この授業では、1960年代のさまざまな動向の中に後のサッチャリズムの歴史的前提を見出すことを試みる。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| イギリスの1960年代を、国際的な動向も視野に収めながら、現代史の大きな流れの中で把握する能力を身に着けること。 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| (1)さまざまな1960年代論（1回） (2)「豊かな社会」という前提（1回） (3)若者の台頭（1回） (4)文化革命の諸相（音楽、ファッション、映画、アート、ドラッグ、等）（2回） (5)ビートルズとロックの覇権（2回） (6)「許容する社会」の到来（1回） (7)性的解放（1回） (8)1968年（1回） (9)人種問題（1回） (10)モラリズムの反撃（2回） (11)二大政党の1960年代（1回） (12)総括（1回） | | | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | | | |
| 特になし | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点及び達成度】 | | | | | | | | | | | |
| 学期末のレポートによる評価を基本とする。 | | | | | | | | | | | |
| ----- 現代史学(特殊講義)(2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

現代史学(特殊講義)(2)

[教科書]

使用しない
プリントを配布する。

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

以下の文献を参照すること。

長谷川貴彦『イギリス現代史』岩波新書、2017年。
セリーナ・トッド(近藤康裕訳)『ザ・ピープル：イギリス労働者階級の盛衰』みすず書房、2016年。
ピーター・クラーク(西沢保ほか訳)『イギリス現代史、1900 - 2000』名古屋大学出版会、2004年。

(その他(オフィスアワー等))

通年の受講が望ましい。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。